

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	島根県
-------	-----

I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大田市立第二中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	12	31
生徒数	144	137	156	9	446	

II 研究の概要

1. 研究主題

学ぶ意欲を高め、確かな学力を培う個に応じた指導はどうすればよいか

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

生徒の理解度に差が生じやすい教科であり、少人数授業などきめ細かな指導を実施しているため、数学・英語を重点教科としつつ、他の教科についても個に応じた指導方法に関する研究を深めた。

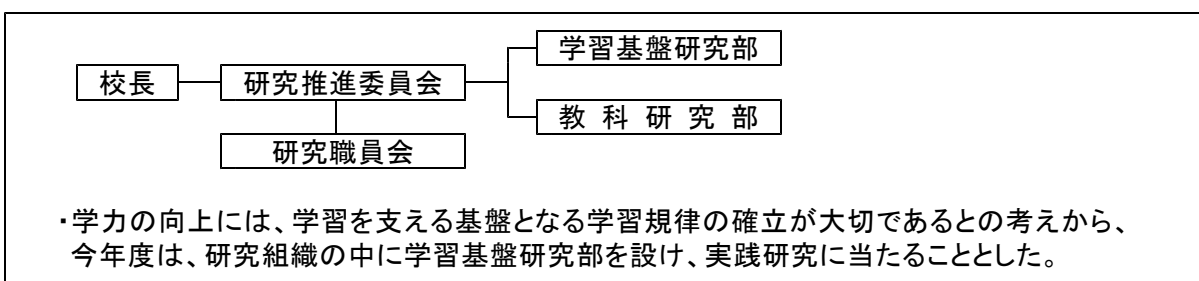
(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>○テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた効果的な指導方法・指導体制の在り方</li> </ul> <p>○研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個を生かすための学習集団の編成や指導方法、教材を工夫すれば、学力の向上へとつながるであろう。</li> </ul> <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学科における少人数習熟度別指導の実施。英語科における少人数指導やチームティーチング及び技能別特設授業の実施。</li> <li>・数学、英語以外の教科についても、教科ごとに学力向上に向けての取組を協議、実践する。</li> <li>・基礎的事項の定着や発展的内容の指導のための教材やドリルの工夫。</li> <li>・評価規準・基準表の作成。</li> </ul>
--------	---

平成15年度	<p>○テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習基盤の育成と個に応じた指導体制や指導方法、教材の工夫</li> </ul> <p>○研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を支える基盤となる学習習慣や授業規律を高めていけば、学力の向上へとつながるであろう。</li> <li>・個を生かすための学習集団の編成や指導方法、教材を工夫すれば、学力の向上へとつながるであろう。</li> </ul> <p>○研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律に関する全教職員の共通理解と徹底。</li> <li>・数学、英語におけるより効果的な少人数指導や習熟度別指導の在り方。</li> <li>・重点教科以外の年間指導計画の見直し。</li> <li>・基礎的事項の定着や発展的内容の指導のための教材やドリルの工夫。</li> </ul>
--------	---

平成16年度	<p>○テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習基盤の育成と個に応じた指導体制や指導方法、教材の工夫</li> <li>・学力向上のための効果的な評価の工夫改善</li> </ul> <p>○研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を支える基盤となる学習習慣や授業規律を高めていけば、学力の向上へとつながるであろう。</li> <li>・個を生かすための学習集団の編成や指導方法、教材等を工夫すれば、学力の向上へとつながるであろう。</li> <li>・評価を工夫すれば、学習に取り組む意欲が増し、学力の向上へとつながるであろう。</li> </ul> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律に関する全教職員の共通理解と徹底。</li> <li>・効果的な少人数指導や習熟度別指導及びTT指導の在り方。</li> <li>・基礎的事項の定着や発展的内容の指導のための教材やドリルの工夫。</li> <li>・評価規準・基準表の見直しとより適切な評価の工夫。</li> <li>・「確かな学力」の向上を中心とした全体計画の作成。</li> </ul>
--------	--

### (3) 研究推進体制



## Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導やTT指導は、一人一人の学習の様子が把握しやすく、個々のつまづきや課題を早期に発見して個に応じた指導をしやすかった。また習熟度別指導は、同じような課題を抱えている集団を指導することで、指導方法を模索しやすいという利点もあった。生徒へのアンケートでも、少人数指導やTT指導に関して、「勉強の内容がよくわかる」という問いに、全ての学年で70%以上の生徒が「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えており、特に少人数指導では、全ての学年でその割合が75%を超えた。さらに、「先生や友達の話をよく聞いている」という問いにおいても高い数値を示した。普段の授業における教師の観察からも、最後まで粘り強く課題に取り組む生徒の姿が多く見られるようになり、苦手意識を持つ生徒の数は減っていると思われる。2年次の学力テストをまだ実施していないので客観的なデータは十分ではないが、関心・意欲という面で、ある程度の効果をあげていると考えられる。</li> <li>・本校では、これまで学習規律の確立や夏期休業中の補充的、発展的、応用的な学習教室の開設、各教科における基礎学力の定着や個に応じた指導方法、教材の工夫改善等に取り組んできた。生徒への学習に関するアンケートの結果によると、「学校の授業がどのくらいわかりますか」という問いに対して、「よくわかる」「だいたいわかる」と答えた生徒が、昨年度との比較において、2、3年生ともに増加(2年生 9.8%、3年生 8.3%)しており、「分からないことが多い」「ほとんど分からない」と答えた生徒が減少(2年生 9.8%、3年生 1.1%)している。家庭学習の時間も、2、3年生ともに「全くしない」「30分未満」の生徒が減少し、「1時間以上」の生徒が増加(2年生 7.6%、3年生 22.5%)している。3年生の場合、入試を控えた時期であることが家庭学習時間の増加に影響していることは事実であろうが、「学校が好きだ」や「勉強が好きだ」の問いに対しても、「そう思う」や「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が増加(「学校が好きだ」11%、「勉強が好きだ」2.5%)していることなどから、徐々にではあるが、これまでの取り組みが効果をあげつつあると考える。</li> </ul>
---

## 2. 今後の課題

### 課題

- ・学習規律について、ある程度成果が現れつつあるものの、まだまだ十分とはいえない。今後も継続して取り組んでいかなければならない。
- ・少人数指導や習熟度別指導をより効果的なものにするために、コース編成や指導内容をさらに工夫改善していく必要がある。
- ・各研究部会や教科部会でより具体的な研究計画を立て、組織的に研究を進め、研究の深化を図る必要がある。
- ・学習意欲を高め、学力向上へとつながるように、評価の方法や内容をさらに工夫改善する必要がある。

## IV 学力把握のための学校としての取組

- ・本校生徒の学力の定着状況を測定し基準として活用するため、また、全国の状況との比較により本校生徒の弱点を探り指導方法の改善に役立てるため、平成 15 年4月に国語・社会・数学・理科・英語の5教科について学力テストを実施した。またその後の変容を捉えるため、平成 16 年4月に学力テストを実施する予定である。
- ・数学科、英語科では、少人数指導あるいは TT 指導を実施しており、このことが学力向上に有効であるのか、より多くの客観的データを得るために、平成 16 年2月に数学・英語について学力テストを実施する予定である。
- ・また、学習に対する生徒の意識及びその変容を捉えるために、毎年3学期に学習アンケートを実施している(1年生は1学期と3学期)。

## V フロンティアスクールとしての成果の普及

- ・日 時:平成15年9月30日 場 所:大田市立第二中学校  
テーマ:数学科における少人数習熟度別指導  
対 象:大田・邇摩教育研究会算数・数学部
- ・日 時:平成15年11月21日 場 所:大田市立第二中学校  
テーマ:英語科における少人数習熟度別指導  
対 象:大田・邇摩教育研究会英語部及び浜田教育事務所管内フロンティアスクール

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無